

○ 第3回渋川市総合計画審議会結果概要

開催日時	平成29年1月27日（金） 13時30分から15時45分まで
開催場所 及び出席者	<p>本庁舎3階 大会議室</p> <p>○審議会委員（河藤委員、結城委員、福田委員、狩野委員、南雲委員、桑原委員、桑島委員、今井委員、水沢委員、入澤委員、眞下委員、大森委員、関口委員、反町委員、唐澤委員、荻野委員）</p> <p>○市長</p> <p>○策定委員会委員（副市長、教育長、総務部長、企画部長、市民部長、こども課長（代理出席）、農政部長、商工観光部長、建設部長、水道部長、教育部長、監査委員事務局長、農業委員会事務局長、議会事務局長）</p> <p>○事務局（企画課長、企画課統括主幹、企画課政策係員）</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料No.1 第2次渋川市総合計画基礎調査報告書（追加分） ・資料No.2 市民意識調査結果報告書 ・資料No.3 中学生・高校生意識調査結果報告書 ・資料No.4 基本構想（素案）の考え方について ・資料No.5 第2次渋川市総合計画基本構想（素案） ・第2回渋川市総合計画審議会結果概要 ・正誤表 ・上毛新聞「渋川市（うち）で暮らそう」
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ（市長、会長） 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> （1）報告事項 第2次渋川市総合計画策定に係る基礎資料について （2）協議事項 第2次渋川市総合計画基本構想（素案）について 4 その他 5 閉会
審議結果	<ol style="list-style-type: none"> （1） 第2次渋川市総合計画策定に係る基礎資料について 来年度の地区別・分野別懇談会に多くの市民に参加してもらえるよう周知方法を検討する。 （2） 第2次渋川市総合計画基本構想（素案）について 次の10年間で市として目指す姿をわかりやすい言葉で基本構想に加える。

○ 第3回渋川市総合計画審議会での意見等

(1) 第2次渋川市総合計画策定に係る基礎資料について

No.	委員からの意見等	回答等
1	<p>将来人口の推計がかなり楽観的であるが、なぜこのようになったのか。人口推計を元に財政を考えているので、根拠をはっきりさせる必要があるのではないか。</p>	<p>【市】 このままでは、社人研の推計のように人口は減ってしまうので、市では、少子化、人口減少を抑え、活力ある市を維持していくために、まち・ひと・しごと創生総合戦略を平成27年度に策定した。仕事づくり、人の流れづくり、結婚・出産・子育ての環境づくり、まちづくりという4つの観点で施策を適切に行い、人口の自然減、社会減をできるだけ抑える取組を始めた。そういったことを踏まえ、平成39年の人口を7万5,000人とした。</p>
2	<p>平成29年度中に、実施計画まで検討していくのか。 平成29年度に第2回地区別・分野別懇談会などが予定されているが、どのように進めていくのか。</p>	<p>【市】 平成29年度第1回審議会で、基本計画を審議いただき、基本計画と並行して、実施計画を検討する。 平成29年度は、審議会等で協議いただいたものを基に地区別・分野別懇談会を開催する。併せて、ホームページや広報等を通じて、市民の意見を聞く予定である。</p>
3	<p>平成29年度の地区別・分野別懇談会は非常に重要だと思うので、多くの人に参加するようにしてもらいたい。 中学生・高校生アンケートを実施しているので、中高生にも関連する方策を考えた方が、広報という意味でも非常に効果があるのではないか。</p>	<p>【市】 今年度は、自治会への出席のお願いや、広報などにお知らせを掲載したが、来年度は、回覧板等で分かりやすくお知らせしたり、公民館を通じてお知らせするなど、多くの人に参加いただけるよう工夫したい。 中学生・高校生に興味を持ってもらえるよう結果をもう少し分かりやすくし、中学校・高校に配布できればと考えている。</p>

(2) 第2次渋川市総合計画基本構想(素案)について

No.	委員からの意見等	回答等
1	<p>市民意識調査結果で、まちづくりが進んでいないと考えている人、サービスが向上していないという人が多いが、これに対応するようなものが基本構想に含まれていない。どのように対応していくのか。</p> <p>子どもを育てるなら渋川市、教育するなら渋川市などの方が市民に伝わりやすいのではないかと。人口が減少していかないように頑張るといふのもっと前面に打ち出した表現があるとよいのではないかと。</p>	<p>【市】</p> <p>合併して10年経ったが、まちづくりは10年ではできない。育む・結ぶ・創るで、まずは一体感を大きく醸成していきたい。</p> <p>基本構想の分かりやすさについては、総合計画は全体の計画であるので、ある程度抽象的にならざるを得ない部分もある。</p>
2	<p>自然災害に対して、どういった取り組みを考えているのか。</p>	<p>【市】</p> <p>安心・安全は、市民の関心が一番高いところなので、基本計画の中で具現化するために防災に対する整備や体制づくりに取り組んでいきたい。</p>
3	<p>安心して暮らせる防犯体制の整備、安心して子どもを産み育てられる環境の充実に力を入れた施策を考え、施策に入れ込んでもらいたい。</p> <p>育む・結ぶ・創るを基本理念として、各分野別に整理するとなっているが、総花的になっている。県が昨年度つくった戦略は、人口減対策のみである。まずは、将来人口を7万5,000人までの減少にとどめる施策を重点的に打ち出していただきたい。</p> <p>財政の歳出について、その他の項目が人件費の額を上回るものなのか。効果を考えよく吟味してお金を使ってほしい。学校の統廃合を積極的に進め、教育レベルや教育環境を整えるべきではないかと。空いた学校を有効活用するなど前向きに考えてほしい。</p>	<p>【会長】</p> <p>人口減少対策については、まち・ひと・しごと創生総合戦略があるので、連携、整合性をしっかりと取り、それを想定した基本計画にしていく必要がある。</p> <p>基本理念は、基本的にはある程度抽象的なものにならざるを得ないところもある。実施計画で具現化していく中で、総合戦略をどのように活用していくか考える必要がある。</p> <p>【市】</p> <p>歳出のその他は、物件費や備品、消耗品などが含まれており、一番金額が大きいものは委託料である。一般会計から特別会計の足りない分を繰り出している繰出金などが金額を押し上げている。今後、もう少し分かりやすい表現に努めたい。</p>
4	<p>災害発生時に本庁舎が対策本部になると思うが、東日本大震災のときに、本庁舎の壁に亀裂が入った。対策本部を現状のままにしておくのか。</p>	<p>【会長】</p> <p>基本計画又は実施計画に取り込むことで、検討を進めていきたい。</p>

5	人口減少対策や市民への分かりやすさが示されていけば、案のような基本構想でよいのではない。基本計画と実施計画など、細かいことが計画されているのは非常に良いのではないか。	
6	次の世代が渋川市に住むかどうかで将来像が大きく変わってしまうので、中高生の意識を大切にしていきたい。自然環境の豊かさは、市のセールスポイントだと思うので、前面に挙げていただきたい。中高生意識調査結果では、道路・公共交通などの都市基盤整備にいろいろな意見が出ている。駅から学校までの道路の整備や安全面の確保など、具体的に対応を考えていただきたい。	【会長】 基本計画に取り込むことで、検討を進めていきたい。
7	スポーツは、お金や手間がかかるので、関心は低いが、お金を出しても健康は維持するという面もあり、健康とスポーツをいかにマッチングしていくかが課題である。今年5月に総合型スポーツクラブの立ち上げがある。日本で最初の市民全員がいろいろなスポーツに安価で参加でき、医療とスポーツを取り入れた環境づくりを具現化するもので、スポーツに対する考え方が大きく変わる。ぜひ、計画の中に盛り込んでいただきたい。	【会長】 基本計画、実施計画に取り込むことで、検討を進めていきたい。
8	県で生ゴミを集め、ゴミ袋を市民に無料配布するリサイクルを行うようだが、市も乗り遅れないように地球温暖化対策に取り組んでいただきたい。	
9	同規模の市と比べると職員が多いということが、財政のスリム化という部分で気になる。 基本構想はもやっとしているものだと思うが、もやっとなさせる必要はない。もう少し切り込んだ構想でもいいのではないか。	【会長】 基本計画や実施計画で財政の健全化にしっかりと取り込むことで、検討を進めていきたい。

1 0	<p>市民意識調査で、これからのまちづくりに期待する内容として、安心・安全、福祉、健康、子育て、自然、環境、観光、交通、産業などがある。それぞれの部門を縦糸だとすれば、横糸で紡ぐのが観光であり、お金を生む部分は、観光と産業である。どのような戦略でお金を生むのかを計画に盛り込んでいただきたい。観光でまちづくりというよりも、財政を考えなければいけないので、うまく活用してほしい。</p> <p>ふるさと納税が昨年4月から始まったが、現在の状況をお聞きしたい。</p>	<p>【市】</p> <p>今年度のふるさと応援寄付金は現在約1億8,000万円程度。今年度、感謝券の導入やふるさと納税のポータルサイトへの掲載などにより、昨年の約1.4倍程度の見込みで推移している。</p>
	<p>例えば、ふるさと納税として、7億の歳入があれば、財政も大きく変わってくるのではないかと。財政が潤ってくれば、給食の無償化や健康、スポーツにも取り組むことができ、市民は将来に向けて夢が持てるのではないかと。削減することも大事だが、お金をかけるところにはかけていただきたい。</p>	<p>【会長】</p> <p>産業経済の振興は、地域に付加価値をもたらすので、基本計画、実施計画において、産業経済対策をしっかりと考えたい。</p>
1 1	<p>基本構想を大木に例えると太い幹になると思うが、この案でよいと思う。今日の話やアンケート結果をみると、枝に当たるものが多いように思う。次の太い枝が出てくると具体的になり分かりやすくなるのではないかと。</p> <p>地区別・分野別懇談会の参加を促す方法として、自治会で回覧をしてもあまり見ない。各部署から直接流す方法など、回覧板以外の方法も考えていただきたい。</p> <p>農業の件がほとんど出ていない。市内に大きな会社が4つあるが、それ以外は農業が大事な分野となる。ぜひ、計画に組み入れていただきたい。</p>	
1 2	<p>目指すべきものが大きすぎて、どこを目指しているのかが分からない。将来像に、脱・消滅や全員で人口7万5,000人を目指すなどを入れた方がよいのではないかと。</p>	

1 3	<p>中高生意識調査で、安心・安全、福祉、健康がこれからのまちづくりに期待するものの上位に来ている。生活する上で当たり前のことが期待されているので、すぐにでも行動に移すべきではないか。幼稚園、小学校、中学校の教育など、特に不満があるわけではないが、渋川市ならではの教育や特色ある教室などがあれば、市外からもここで子育てしてみたいという人が出てくるのではないか。</p>	
1 4	<p>みんなが納得し、ゴールが何か分かり、一致団結してその方法を守っていきながら、一緒に点検できるフレームが必要である。10年間の目的を分かりやすい言葉で言うならば何か、渋川市をどんなまちにしたいのか、力強い言葉が必要ではないか。たたき台として、「次世代が、安心して誇りを持って暮らし、働くまちをつくる」はいかがか。これからの10年間は「人・地域・資源を育む・結ぶ・創る」でよいとなれば、全ての事業がこの観点で議論されたか、実行されたかなど確認していくことになる。いろいろな分野で活用するとき、使いやすく納得でき、市の未来をつくるものになっているか点検していただきたい。</p> <hr/> <p>将来像「やすらぎとふれあいに満ちたほっとなまち」は修正できるのか。修正できないのであれば、もう少し今の課題を踏まえ、将来こういう目的でこの時代を進んでいくということまで入れ込んでいく必要がある。</p> <hr/> <p>将来像を無理に変えるのではなく、この10年間で目指す言葉を足すことは可能か。</p>	<p>【市】 将来像を変えることは実務的には可能だが、新市建設計画を5年間延長しており、第2次総合計画の計画期間と重なっている。合併後10年たったが、第2次総合計画は、新市建設計画を踏まえた上で策定をするので、慎重に検討したい。</p> <hr/> <p>【市】 やすらぎとふれあいに満ちたほっとなまちの意味するところは、次世代が安心して誇りを持って暮らして働くまちをつくるという意味であるという解説を入れ込み整理することは十分に考えられる。</p>